

C-67 家庭洋裁に関する調査研究(第4報)

東京家政大家政 本郷美枝 ○潮田美智子 高山瑞葉

目的 第3報に引き続き、各家庭において主婦が行なう洋裁などの程度であるものの実態を把握するとともに、今後の裾服構成指導の参考のための目的をもって実態調査を実施し考察する。

方法 ①調査時期 昭和47年1月 ②調査対象および方法 今回は東京都の附属高等学校1校の1年生～3年生の生徒を通じ、東京都城北地域および埼玉県の一部の主婦に調査用紙を配布し、解答を求める方法で調査 ③調査内容 年令・学歴・専門教育・職業・家族構成などの他に、洋裁や服飾などについてヒントをえているもの、洋服の新調について、また家庭において洋裁を行なうかなどの各項目について、回収総数117名につき集計し考察した。

結果 各項目の実態の結果を報告・考察することとする。主婦の年令は34才～58才で平均年令は44.1才であり、最終学歴は、旧高卒54.4%で、高小卒・専門卒が多く最終学歴の他に洋裁学校・個人教室などで洋裁についての専門教育を受けた人は54.8%で、主婦の職業の有りの人は30.8%あった。なお、洋裁や服飾などについてヒントをえているものとしては、服飾専門誌や主婦向実用誌の他に、既製品を見るが32.0%・新聞の家庭欄を参考にする人が多くあり、洋服の新調については、既製品を買うが18%・自分で縫う14.6%・その時々で異なる・知人に頼む・洋裁店に頼むなどの順であった。また、家庭洋裁をする人は72.2%であった。